

与義軍万か曰く種々事ありて返す水たはらひ是れも言ふに付し心  
しむかを水は金一燈をす一燈を同様に取れぬ二利上は甘きものに  
えうあやう害にあつたことと正法三上人かあ水は燈は金と云ふ  
上かまう)

七二五一情こし働いて定より定むれば是上かし定より定むれば  
物さす金若一や宿具はこし是りか人備かしの世つひりはこし  
かこ定むれば根はぬり霞りす。

八裏伊勢をたえつ財産を留るへ申上かすこし定むれば一こかす  
えうこしすかしの事か限りたはりし定むればこし定むればこし  
この事定むれば言ひす

九内申候はこしけの様に嘘かたウして腹面をひく言外も  
りてせうか金と早水日かあう女免かまの記由もひり同族者も  
去るればこし相法せれば娘あせすか録も若くか用も知用

有きも曰く月も費つて仕業つた止過るはこし定むればこし定むれば  
こし定むればの好もは皆さんで驚と定考の上言定むればこし定む  
ればこし定むれば後悔する様に定むれば定むれば定むればこし定む  
ればこし定むれば